

令和7年度

指導員養成訓練 指導員養成課程

訓練技法習得コース

シラバス



職業能力開発総合大学校

POLYTECHNIC UNIVERSITY(PTU)

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		職業能力開発学 (Academic of Human Resources Development)	36H (2単位)	宮地 弘子
科目区分	能力開発学科			
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)		必修 / 選択	
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
「職業能力開発」すなわち「職業に必要な能力を育てること」は、すべての労働者にとって必要不可欠な営みであり、また、職業訓練指導員の仕事そのものである。本講義では、近年の雇用・社会・技術の変化をふまえながら職業能力開発の仕組みを体系的に学習し、職業能力開発および指導員業務の意義と全体像を理解することを目的とする。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における職業能力開発の歴史を雇用社会の変化と結びつけて説明できる 2. 公共職業訓練と指導員の仕事の普遍的な意義を説明できる 3. 現代の職業能力開発に寄せられている期待を、近年の社会的変化と結びつけて説明できる 4. 職業能力開発のための法令・計画が規定するビジョンを説明できる 5. 職業能力開発のための行政機構、職業訓練の構成、公共職業訓練の課程・基準を説明できる 6. 公共職業訓練が備える仕組みを対象者ごとのニーズをふまえて説明できる 7. 職業能力評価制度の意義と職業訓練指導員免許制度の特徴を説明できる 8. 諸外国における職業能力開発のあり方をふまえて、これからの日本で必要とされる職業能力開発の取り組みを説明できる

授業計画		備考
1	オリエンテーション・雇用社会の変化と職業能力開発の沿革	
2	近年の社会的変化と職業能力開発への期待(1) 雇用慣行の転換を背景として	
3	近年の社会的変化と職業能力開発への期待(2) 技術革新の加速・少子化の進行を背景として	
4	職業能力開発のための法令・計画	
5	日本における職業能力開発の仕組み(1) 全体像と訓練課程・訓練基準	
6	日本における職業能力開発の仕組み(2) 特に援助を要する者を対象とした職業能力開発	
7	職業能力評価制度、職業訓練指導員免許制度	
8	諸外国における職業能力開発	
9	施設実習と指導員実務に向けて	

評価方法	出席状況及びコメントペーパーの内容を踏まえて総合的に評価する
教科書及び参考書	講義ごとに資料を配布する
主な使用機器等	パソコン、プロジェクト
その他	授業方法は原則として対面とするが、感染症の拡大等、状況によってはTeamsで実施する可能性もある

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		授業計画法 (Method of Teaching Plan)	36H (2単位)	中村 友基
科目区分	能力開発学科			
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期			
			必修 / 選択	
			必修	

授業の目的と概要
<p>職業訓練指導員には、職業能力開発促進法に基づくさまざまな課程の職業訓練を計画し、実施することが求められる。この場合、与えられるカリキュラムや授業計画、教材類に沿って訓練を実施することだけにとどまらず、法の規定、産業や地域、働く人の希望、職業の実態などを勘案した計画が求められる。こうした背景から、本科目は、職業訓練の役割、法の規定、産業や地域の要望を反映させた訓練計画、単位授業の計画を立案できるようになることを目的とする。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな職業能力開発施設が実施している職業訓練の課程を判別できる 2 公開されたカリキュラムモデルを参考に能開法に基づき(普通課程/短期課程(システムユニット訓練)のカリキュラム案を作成できる 3 特定の職種・作業に必要な職業能力を育成するカリキュラムを計画できる(能力資質分析・目標分析・作業分解) 4 学習内容を職業適用できるように、POCEが一貫するように、単位授業を計画できる 5 単位授業を指導の3原則4活動を組み合わせて計画できる 6 授業の内容、進行を他者と同じように理解できるように、標準的な記述方法で指導案を記述できる

授業計画		備考
1	科目のガイダンス 職業訓練の目的・基本理念	講義・演習
2	訓練課程の種類	講義・演習
3	訓練コースの計画(長期課程) 1	講義・演習
4	訓練コースの計画(長期課程) 2	講義・演習
5	訓練コースの計画(短期課程) 1	講義・演習
6	訓練コースの計画(短期課程) 2	講義・演習
7	能力資質分析によるカリキュラム開発 1	講義・演習
8	能力資質分析によるカリキュラム開発 2	講義・演習
9	目標分析によるカリキュラム開発	講義・演習
10	作業分解によるカリキュラム開発	講義・演習
11	指導案の書き方(目的・到達目標・指導項目) 1	講義・演習
12	指導案の書き方(目的・到達目標・指導項目) 2	講義・演習
13	指導案の書き方(指導の3段階と4活動) 1	講義・演習
14	能力の種類と指導方法の原則 1	講義・演習
15	能力の種類と指導方法の原則 2	講義・演習
16	指導案の書き方(指導の3段階と4活動) 2	講義・演習
17	指導案の活用、指導の実演 1	講義・演習
18	指導案の活用、指導の実演 2	講義・演習

評価方法	<p>演習課題 評価の前提条件 2/3を超える出席、すべての課題の期限内での提出 課題の評価基準 A: 欠点がない B: 少数の欠点がある C: 少数以上の欠点がある D: 授業で学んだ成果を特定できない欠点がある、または誤りがある 注: 「欠点」は、誤りではないが検討が不足している 「誤り」は、授業で扱った技術を適用していない(例: 授業計画のPO)</p>
------	--

	<p>CEが一貫していない、授業計画の到達目標を「～できる」と表現していないなど)</p> <p>科目を代表する課題の評価で、点数をつける。</p> <p>科目を代表する課題で評価がDの場合、科目は不合格。この場合、一度だけ再提出を認める場合がある。</p>
教科書及び参考書	教科書：自作テキスト、コンテンツ：eラーニング教材
主な使用機器等	パソコン、プロジェクタ
その他	<p>1)受講方法、受講環境の整え方、出席確認の方法、課題への取り組み方、剽窃の禁止、課題の提出方法と期限、および履修中止となる場合について、初回ガイダンスで説明する。</p> <p>2)履修中止となった場合は、職業大が事前に認めている条件以外ではこれを回復することはない。初回ガイダンスを必ず受講して、履修中止の条件を確かめること。初回ガイダンスを欠席した場合はmoodle上に掲示しているガイダンス資料で確かめること。</p> <p>3)Webex等で遠隔での受講を可能とする場合があるが、通信環境、PCなどの学習環境は受講者の責任で整えること。</p> <p>4)受講者はPC操作について次のことができること。これらは授業内では指導しないので、受講前にできるようにしておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワード、エクセルによる文書作成・編集 インターネット等から収集した上を文書上に見やすく配置する、指定された様式を用いて見やすく文書を作成する、複数の文書をまとめて1つの文書(ワード・エクセル・pdf間で)にまとめる。 ・インターネットで指定された情報を検索する。 ・インターネット上のアプリ(pdf編集、ビデオファイル編集)を、自身で操作方法を確認しながら使用する。 ・課題提出時に、Google ドライブなどのクラウドにファイルを保存し、LMS上の課題提出場所にファイルへのurlリンクを提出する。クラウド上のドライブを利用できるようにIDなどを取得しておくこと。

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		教材開発法 (Development Method of Teaching Materials)	36H (2単位)	上田 勇仁 (外部講師)
科目区分	能力開発学科			
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期			
			必修 / 選択	
			必修	

授業の目的と概要
<p>【目的】教材開発法は、学習者が学習目標に到達するために必要な教材などを開発し、開発した教材を建設的に修正する力を涵養する科目です。</p> <p>【概要】この科目では、独学を支援するための教材を開発するために必要なノウハウにもとづき、自身で設定したテーマに関する教材を企画・開発・修正・報告していきます。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自身が設定したテーマに関する教材を企画することができる。 2. 企画した教材について学習者が独り立ちできる教材を開発することができる。 3. 開発した教材について他者から助言や学習履歴を踏まえて建設的に修正することができる。 4. 上記の到達目標を満たした上で、自身の開発した教材を魅力的に報告することができる。

授業計画		備考
1	1.教材をイメージする 2.教材作りをイメージする	
2	3.教材の責任範囲を明らかにする 4.テストを作成する	
3	5.教材の構造を見極める 6.独学を支援する作戦をたてる	
4	7.教材パッケージを作成する(1)	
5	7.教材パッケージを作成する(2)	
6	7.教材パッケージを作成する(3)	
7	8.形成的評価を実施する	
8	9.教材を改善する	
9	報告会・振り返り	

評価方法	小テスト (20%) 教材企画書 (20%) 教材に関する資料 (60%)
教科書及び参考書	教科書：教材設計マニュアル-独学を支援するために- 2420円 (税込) ISBN-13: 978-4762822445 鈴木克明 著 北大路書房
主な使用機器等	パソコン、プロジェクター、プリンター、Moodle
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		受講者支援法 (Theory of Trainee Support)	36H (2単位)	寺内 美奈
科目区分	能力開発学科			
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期			
			必修 / 選択	
			必修	

授業の目的と概要
<p>本講義の目的は、職業訓練の現状を知り、そしてその職業訓練に何が求められているのかを理解する。さらに、受講生の社会的な背景や、様々な制度を学び、どのように支援すればよいかについて理解する。職業訓練現場において、指導員として受講生をどのように指導するかについて、集団指導、個人指導、生活指導さらにそのための動機づけについて理解し、クラス運営における配慮事項を理解する。最後に、受講者への支援として指導員や施設の立場から、コミュニケーションの取り方、効果的な支援法を解説するとともに、ハラスメントやメンタルヘルスマネジメントについて理解する。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1 職業訓練現場における受講者への配慮事項を理解することができる。 2 受講者対応の基本的な方針を意識し、自分なりに実践することができる。

授業計画		備考
1	オリエンテーション、指導員の役割・資質	講義・演習
2	指導員の役割・資質	講義・演習
3	社会・就労構造の変遷	講義・演習
4	社会・就労構造の変遷	講義・演習
5	ユニバーサルデザインの概念と7原則	講義・演習
6	ユニバーサルデザインの概念と7原則	講義・演習
7	職業訓練におけるユニバーサルデザイン教育	講義・演習
8	職業訓練におけるユニバーサルデザイン教育	講義・演習
9	集団指導と個別指導・動機付け	講義・演習
10	集団指導と個別指導・動機付け	講義・演習
11	対人コミュニケーション	講義・演習
12	対人コミュニケーション	講義・演習
13	職業訓練現場のメンタルヘルス	講義・演習
14	職業訓練現場のメンタルヘルス	講義・演習
15	ハラスメントの概念と対応	講義・演習
16	ハラスメントの概念と対応	講義・演習
17	レポート作成	
18	まとめ・「受講者支援実践」課題解説	

評価方法	出席及びテストの内容等をもとに総合的に判断するが、ディスカッションへの参加を重視する
教科書及び参考書	指定なし。自作テキスト及びビデオ教材（提示のみ）
主な使用機器等	パソコン、プロジェクター、Moodle
その他	「職業訓練心理学」科目と並行して受講すること。両科目は「受講者支援実践」の課題遂行と連動する。

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		訓練評価法 (Training Evaluation Methods)	36H (2単位)	深江 裕忠
科目区分	能力開発学科			
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)		必修 / 選択	
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
<p>職業訓練指導員は、訓練の実施するなかで評価も行う。ただし、この評価とは、訓練生の成績をつけるという意味ではない。それ以外にも、訓練活動の評価も行う。訓練活動とは、訓練計画、訓練カリキュラム、訓練教材、訓練手法、訓練環境といった、訓練全体の内容のことである。この訓練活動を評価することで、訓練内容のどこに問題があるのかを見つけ、改善点を明らかにすることができる。また、訓練生を評価するときには、公正で不公平のないように実施するのが肝要である。そのためには、訓練評価の4つの性能を見極めて、4つの性能のバランスを取ることが大事である。本授業では、訓練生と訓練活動の評価ツールの開発だけでなく、4つの性能も考慮したバランスのよい訓練評価を習得することを目的とする。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1 訓練評価の目的について、資料を見ながら説明できる。 2 訓練評価の4つの性能とトレードオフについて、例を挙げながら説明できる。 3 訓練評価の5レベルについて、資料を見ながら説明できる。 4 訓練活動の評価について、課題として与えられた練習用仮想訓練コースを対象に開発手順に従って、アンケート用紙を作成できる。 5 受講者の評価について、課題として与えられた練習用仮想訓練コースを対象に作成例を参考にしながら、筆記試験と実技試験を作成できる。

授業計画		備考
1	1. ガイダンス (1) シラバスの提示と説明 (2) Moodleでの学習の進め方 2. 訓練評価の定義 3. 訓練評価の全体像と使う場面 4. 訓練評価に必要な知識 (1) 総括的評価と形成的評価 (2) 訓練目的・到達目標との関係 (3) 訓練評価の5レベル (4) 訓練評価の4つの性能	講義・演習
2	5. 訓練生の評価 (1) 主な評価ツール (2) 口頭質問と机間巡視 (3) 客観的試験法 (4) 主観的試験法	講義・演習
3	6. 筆記試験の開発 (1) ×試験の開発 (2) 筆記試験の開発	
4	7. 実技試験の開発 (1) 実技試験の種類 (2) 実技試験の評価対象 (3) 配点計画 (4) 採点基準の定め方 (5) 実技試験の改良	講義・演習
5		
6	(6) 実技試験の新規開発	講義・演習
7		
8		
9	8. 訓練活動の評価 (1) 主な評価対象と確認項目 (2) 訓練活動の評価方法 (3) アンケートの開発	講義・演習

評価方法	×試験の開発課題 10%、筆記試験の開発課題 30%、
------	-----------------------------

	実技試験の開発課題 40%、訓練活動の評価ツールの開発課題 20%
教科書及び参考書	教科書：自作テキスト
主な使用機器等	P C、プロジェクタ、Moodle
その他	1～4限の丸1日授業をする日が多いので、体調管理に気をつけること（1日休むと出席率が大きく下がる）

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		職業訓練心理学 (Psychology of Vocational Training)	36H (2単位)	大場 麗
科目区分	能力開発学科			
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)		必修 / 選択	
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
<p>職業訓練指導員は幅広い年齢層や多様な個性を持った人々の職業能力開発を担う。例えば学卒者訓練であれば主に青年期にある受講生と関わり、離職者訓練であれば自身より年長である受講生と関わる機会も生じる。また心理・精神面や発達面に困難を抱えている受講生もいるだろう。そこで本授業では、生涯発達の観点から職業能力開発を捉えながら、受講生の心理面に寄り添った職業訓練を実施するための知識を得ることを目的とする。なお授業内ではグループワークやケーススタディを行い、実際の職業訓練の場への応用について検討をおこなう。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業訓練実施時に必要となる基礎的な心理学的知識を習得する。 2. 受講生と関わる際に必要となる臨床心理学領域の知識を習得する。 3. 模擬事例のなかで受講生の心理面について見立て、関わりの方針を検討することができるようになる。

授業計画		備考
1	オリエンテーション、「職業訓練指導員」という仕事を考える	
2	働く意味を考える 労働観の変化と「働きたくない」心理	
3	受講生の個性を考える パーソナリティ論	
4	受講生の個性を考える 認知の特徴	
5	受講生の心理を考える 対人関係と感情	
6	受講生の心理を考える 集団の心理	
7	生涯職業能力開発 青年期の心理的課題と仕事	
8	生涯職業能力開発 中年期の心理的課題と仕事	
9	ストレスについて知る ストレスのしくみとストレス・マネジメント	
10	ストレスについて知る 心身相関と心身症	
11	精神障害の理解 ストレス因関連障害	
12	精神障害の理解 不安に関連する障害	
13	精神障害の理解 嗜癖の問題	
14	精神障害の理解 愛着の問題とパーソナリティ障害	
15	精神障害の理解 精神病性の障害	
16	発達障害の理解	
17	職業能力開発における心理的支援 精神・発達障害を抱える受講生の職業訓練	
18	職業能力開発における心理的支援 受講生に寄り添った職業訓練を考える	

評価方法	毎回の小レポート(60%)，レポート(40%)
教科書及び参考書	指定なし。参考書は授業内で適宜紹介する。
主な使用機器等	パソコン、プロジェクター
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		カウンセリング法 (Approaches to Counseling)	36H (2単位)	新目 真紀
科目区分	能力開発学科			
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)		必修 / 選択	
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
<p>キャリアに関する研究は、1900年頃、北米を中心に始まりました。時代とともに、人がキャリアを形成する上で解決しなければならない課題が研究され、現在では、さまざまなキャリア理論、カウンセリング理論が提唱されている。</p> <p>本科目では、時代とともに開発されたキャリアに関する代表的な理論を理解するとともに、各理論で用いられるカウンセリング技法の活用やキャリアガイダンスの実施方法を理解し、キャリア形成支援に関する見通しが立てられるようにすることを目的とする。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア理論によって解決できる課題や問題が異なることを推定できる。 2. 相談者が抱える課題を把握する際に、適切な見立てとカウンセリングが使用できる。 3. キャリア・コンサルティング段階に応じたキャリアガイダンスが計画できる。 4. キャリア・コンサルティング段階に応じた支援の見通しが立てられる。 5. 相談者との関係構築、自己理解の支援段階において、相談者に対し、自己一致した状態を維持しつつ、受容的・共感的な態度で相談を進めることができる。

授業計画		備考
1	ガイダンス 特性因子理論とは	講義・演習
2	ホランドの職業選択理論と実践	講義・演習
3	キャリア支援のためのカウンセリング技法	講義・演習
4	スーパーの生涯発達理論	講義・演習
5	キャリア支援のためのカウンセリング技法	講義・演習
6	組織内のキャリア発達	講義・演習
7	転機の乗り越え方とは (シュロスバーグの発達理論) と実践	講義・演習
8	キャリアガイダンス指導案の作成	講義・演習
9	キャリアガイダンス指導案の実践	講義・演習

評価方法	演習への取組状況、小テスト・毎回のレポートおよびリフレクションペーパー、最終課題を総合的に判断して評価する
教科書及び参考書	教科書：「コミュニケーションリテラシーの教科書ー カウンセリングスキルを使ったエクササイズ」 (東京電機大学出版局) ISBN: 978-4-501-63340-0 適宜、講義レジュメを配布する。
主な使用機器等	パソコン、プロジェクター

その他	
-----	--

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		キャリアデザイン (Career Design)	36H (2単位)	石田百合子
科目区分	能力開発学科		必修 / 選択	
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要

職業訓練受講生のキャリア支援において求められる、基本的なキャリアコンサルティング技法を学習するための科目です。キャリアコンサルティング技法に関する講義と演習を積み重ねながら、学んでいきます。キャリアコンサルティングの支援ステップおよび基本的態度を学習し、職業訓練受講生のキャリア支援を行う際に、適切なカウンセリングの理論とスキルを選択できるようになることを目指します。

到達目標

1. 社会情勢や雇用環境の変化、労働関連法令及び社会保障制度に関する資料を参照しながら、キャリア支援の必要性を説明できる
2. 特にキャリア支援が必要な在職者、離職者等のキャリア形成状態、抱えている課題やその背景を分析・考察できる
3. 自己理解および職業理解を促す各種ツールを用いて、どのようなキャリア支援ができるかを検討し、提案することができる
4. ジョブ・カードの作成方法の流れや作成支援が必要なポイントや留意点について、資料を使って説明できる
5. 相談者との関係構築、自己理解の支援段階において、相談者に対し、自己一致した状態を維持しつつ、受容的・共感的な態度で相談を進めることができる

授業計画

授業計画		備考
1	ガイダンス / キャリア形成支援の必要性	講義・演習
2	企業内人材育成におけるキャリア形成支援	講義・演習
3	職業訓練におけるキャリア形成支援	講義・演習
4	キャリア形成のための6ステップ	講義・演習
5	各種ツールを活用したキャリア形成支援	講義・演習
6	キャリアデザイン支援演習(1)：相談者との関係構築（ラポールの形成）	講義・演習
7	キャリアデザイン支援演習(2)：自己理解の支援	講義・演習
8	キャリアデザイン支援演習(3)：職業理解の支援	講義・演習
9	まとめ	講義・演習

評価方法	演習への取組状況、小テスト・毎回のレポートおよびリフレクションペーパー、最終課題を総合的に判断して評価する
教科書及び参考書	教科書：「6訂版 キャリアコンサルティング 理論と実際」 (著者名：木村 周・下村 英雄 出版：雇用問題研究会) ISBN: 978-4-87563-271-9 参考書：「コミュニケーションリテラシーの教科書ー カウンセリングスキルを使ったエクササイズ」 (著者名：水野 修次郎・新目 真紀 出版：東京電機大学出版局) ISBN: 978-4-501-63340-0 適宜、講義レジュメを配布する。
主な使用機器等	パソコン、プロジェクター、ビデオ
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		人材育成支援論 (Coordinate of Human Resource Development)	36H (2単位)	原 圭吾 濱田 勇
科目区分	能力開発学科			
授業形態	講義			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 対面授業 ■ オンデマンド授業 (Moodle) ■ オンライン授業 (Teams) 			
履修年次 開講時期	1年次 前期			
			必修 / 選択	
			必修	

授業の目的と概要
<p>公共職業能力開発施設の主な任務は学卒者や離職者の方々へ必要な職業訓練を実施し就職を支援することと広く理解されているが、近年はこれに加えて、事業主や在職者に対する人材育成支援も任務の一つとして認識されている。職業訓練は事業主が納付している雇用保険の一部で運営されていることを考えると、職業訓練機関のノウハウを活かし人材育成支援を実施することは当然のことといえよう。この授業は、指導員が事業主、団体等に対する人材育成支援業務に係わる際に必要となる知識、手法などについて習得することを目的としている。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1 会社の役割を説明できる。 2 会社の要素を説明できる。 3 人材育成計画づくり支援に係る助言や参考資料を作成できる。 4 人材育成指導者づくり支援に係る助言や参考資料を作成できる。

授業計画		備考
1	0. ガイダンス (1) シラバスの提示と説明 1. 会社の仕組み (1) 会社の目的・役割 (2) 会社の組織	講義、演習(原)
2	(3) 会社に必要なもの(ヒト・モノ・カネ) 2. 会社の要素「カネ」 (1) BS, PIL (2) 収益性、安全性、生産性	講義、演習(原)
3	3. 会社の要素「モノ」 (1) 設備投資 (2) 固定費と変動費	講義、演習(原)
4	4. 会社の要素「ヒト」 (1) OJT と OFF-JT (2) 人材育成の仕組みと形態	講義、演習(原)
5	5. 人材育成計画の進め方(1) IDプロセスと訓練計画(2) 仕事と能力の分析 (演習: CUDBASチャート作成)	講義、演習 (濱田)
6	(3) 保有能力の把握 (演習: CUDBASチャートに基づくあじさいチャート作成) (4) 訓練必要点の抽出に基づく体系的カリキュラムの作成(演習: OJT、OFF-JT 計画作成)	演習、課題提出 (濱田)
7	6. 人材育成の指導者支援に係わる技法 (1) OJT における作業マニュアル、OJT 指導者養成の意義(2) 作業分解の構成と進め方	講義(濱田)
8	演習: モデル作業の作業分解、分野別の作業分解	演習、課題提出 (濱田)

授業計画		備考
9	(3) 作業分解における急所の重要性ならびに急所発見力の向上技法 演習:急所発見力向上技法演習、作業分解票の作成演習	演習、課題提出 (濱田)

評価方法	確認テスト、提出課題
教科書及び参考書	教科書:自作テキスト 参考書:PROTSと人造り(森和夫、他:海外職業訓練協会) 参考書:企業内人材育成入門(中原淳:ダイヤモンド社:ISBN4-478-44055-7)
主な使用機器等	パソコン、はさみ、ノリ、ABLカード、DUTYカード、模造紙
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		技能指導法 (Skill Instruction Method)	54H (1単位)	中村 友基 安原 雅彦 濱田 勇
科目区分	能力開発実技		必修 / 選択	
授業形態	演習			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
<p>【授業の目的】 職業訓練指導員は、訓練受講者の今後の生活に大きな影響を与えかねない重要な職業です。職業訓練指導員として必要な態度の形成、訓練を適切・安全かつ効果的に展開する技能の育成・向上を目的とします。</p> <p>【授業の概要】 本授業は 指導技法の習得、指導案・板書計画の作成、模擬授業の実施・評価、模擬授業の振り返りおよび改善の4つで構成されています。各項目の詳細は以下の通りです。 指導員として求められる態度が発揮できるよう、指導に必要な「伝え方」や「教材提示」等の方法を学びます。授業を行うための指導案や教材等を繰り返し作成することで、授業設計の理解を深めます。複数回の模擬授業を通じて、訓練受講生が「できるようになる」ための指導のポイントを体感し、より適切な指導を目指し指導技法を学びます。模擬授業に対する評価やコメントから自身の実践を振り返り、適切に授業を修正する活動を通して、授業の品質を高める方法を学びます。</p>

到達目標
<p>実際の授業に適した、指導の流れや話しやすさ等を考慮した指導案を作成できる。 作成した指導案・板書計画を用いて、計画的な授業を展開できる。 指導員として、分かりやすく伝えること（伝え方の工夫）ができる。 授業の実施に必要な教材を作成し、授業内で活用できる。 実施した授業を振り返り、受講者の意見や自己の反省を踏まえ、授業を評価・改善できる。</p>

授業計画		備考
1~5	ガイダンス（本講義の目的・目標、進め方、成績判定）、見通しの立つ授業を考える、板書の技術・演習	講義・演習
6~8	実演の技術、授業の振り返り演習	講義・演習
9~12	指導案の修正演習、模擬授業の実施	演習
13 ~16	模擬授業の計画（指導案、板書計画、教材作成演習）	演習
17 ~24	授業展開力の養成（模擬授業、授業の振り返り・修正、評価演習）	演習
25 ~27	授業展開力の養成2（修正した模擬授業の実施）	演習

評価方法	授業への姿勢、各指導技法の習得状況、模擬授業、振り返りレポート。合格基準は60%以上。
教科書及び参考書	授業用資料を初回に配布。
主な使用機器等	パソコン、プロジェクタ、レーザーポインタ、指示棒、ストップウォッチ等、卓上ベル、ビデオ、カメラ、書画カメラ等
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		受講者支援実践 (Theory of Trainee Support)	54H (1単位)	寺内 美奈 大場 麗
科目区分	能力開発実技		必修 / 選択	
授業形態	演習			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
<p>本科目の目的は、クラス運営という視点から職業訓練指導員の役割を把握し、今後の職業訓練指導員業務に役立てる基礎的な知識を獲得することである。とくに、クラス担任の役割に注目し、授業・訓練の実施以外に想定しておくべき具体的な指導・配慮事項を把握し、今後の職業訓練指導員業務に役立てる課題の取り組みが中心となる。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. クラスがどのように運営されているのかを、現職の職業訓練指導員へのヒアリングを通じて把握し、その背景・内容・目的を説明することができる。 2. 課題レポートを通じた成果報告と共有を通じて自らの取り組みを相対化し、今後のクラス運営における留意点や基本的な指針を適切に説明することができる。

授業計画		備考
1	課題1・課題2の準備:指導員へのヒアリング日程とヒアリング項目の確認	Moodle報告
2	課題1 指導員へのヒアリング調査の実施とヒアリング結果のとりまとめ	Moodle報告
3	課題1 指導員へのヒアリング結果を踏まえたクラス運営場面の聴講と気づきの整理	Moodle報告
4	課題1 課題シートへの記入を踏まえたレポート作成	Moodle報告
5	課題1 課題シートへの記入を踏まえたレポート作成および提出	Moodle報告
6	課題2の準備:指導員へのヒアリング項目の確認	Moodle報告
7	課題2の準備:ヒアリング項目に基づくクラス運営場面の聴講と気づきの整理	Moodle報告
8	課題2 指導員へのヒアリング調査の実施、ヒアリング結果の取りまとめ	Moodle報告
9	課題2 指導員へのヒアリング調査の実施、ヒアリング結果の取りまとめ	Moodle報告
10	課題2 指導員へのヒアリング結果を踏まえたクラス運営場面の聴講と気づきの整理	Moodle報告
11	課題2 指導員へのヒアリング結果を踏まえたクラス運営場面の聴講と気づきの整理	Moodle報告
12	課題2 課題シートへの記入を踏まえたレポート作成	Moodle報告
13	課題2 課題シートへの記入を踏まえたレポート作成	Moodle報告
14	課題3 最終レポート作成に向けた課題1および課題2の調査項目の整理	Moodle報告
15	課題3 最終レポートの作成	Moodle報告
16	課題3 最終レポートの作成および提出	Moodle報告

評価方法	課題成果物により評価する。
教科書及び参考書	指定なし。
主な使用機器等	WEBを用いたレポート課題の提出は必須である。その際、WEB利用の基本的リテラシーを求める。
その他	課題シートの提出期限は遵守すること。

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		訓練実施実践 (Training Implementation Practice)	162H (3単位)	中村 友基
科目区分	能力開発実技			
授業形態	演習			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期			
			必修 / 選択	
			必修	

授業の目的と概要	
目的 (上位目標)	授業の実施にあたっては、訓練分野の特徴に合わせて、訓練内容を実務に適用できるように指導することが必要である。また各種のトラブルへの対応が求められる。また訓練は、PDCAサイクルを回すことでその質の向上が求められる。
概要	この科目では、訓練分野の特徴に合わせて授業の準備、実践ができるようになること、訓練を評価し改善策を立案する具体的な手続きを踏めるようになることを目的とする。 この科目では、訓練実施の実務を通じて、訓練分野の特徴を明らかにすること、それに応じた訓練の準備(指導案、教材、到達度評価の準備)と訓練の実施、また、訓練を実施するにあたってトラブルの予想とそれに対応した準備をする実習を行う。また、受講者からの訓練に対する評価、公開授業による評価、受講者の能力向上程度の評価を事例として、訓練の改善策を提案するまでの一連の手続きを実習する。

到達目標
(1)専門分野の課題とニーズを踏まえた授業の目的、目標、指導項目を設定できる (2)授業のトラブルに対応できる (3)授業を実施できる (4)指導案に沿った訓練を展開できる (5)訓練評価、受講者評価ができる

授業計画		備考
1	課題A1 専門分野に応じた指導項目選択 テキストなどからの検討 指導員へのヒアリングからの検討	
2	課題A2 トラブル準備 トラブル事例の収集、施設の不具合への準備、事故への対応の準備 受講者間、受講者と指導員間のトラブルへの準備	
3	課題A3.1 模擬授業の準備 指導項目に関する技能の向上、指導案の作成、教材の作成	
4	課題A4.1 模擬授業の実践 漏れの無い授業、わかりやすい授業、受講者の理解を確かめる授業 訓練評価の実施	
5	課題A3.2 訓練評価に基づく、本番授業の準備	
6	課題A4.2 本番授業の実践 授業の実践、訓練評価の実施 訓練評価に基づく改善提案、改善の実施	

評価方法	各課題の成果物の成否で評価する 各課題の成果物が一定の程度に到達していない場合、再提出を求める。 このとき、次の課題に影響する成果物の場合は、一定程度に到達するまで次の課題に取りかかれない。 成果物の評価、改善指示は、1課題に対して、1日に1度程度しか実施できない。コメントへの対策が不十分だと、繰り返し再提出を求める事態になる。この場合、無駄に日数を重ねて訓練期間に課題を終えられない場合もある。課題へのコメントには、十分に対策をして再提出すること。
------	---

教科書及び参考書	教科書: 自作テキスト 参考書:
主な使用機器等	パソコン プロジェクター
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 指導員養成課程 訓練技法習得コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		キャリア・コンサルティング実践 (Career Counseling Practice)	54H (1単位)	新目 真紀
科目区分	能力開発実技		必修 / 選択	
授業形態	演習			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
指導員養成訓練の修了後、直ちに訓練指導の現場において、即戦力として活躍するために、施設と関わりがある就職（キャリア形成）支援施設（ハローワーク、若者サポートステーション、障害者職業センター、精神保健福祉センター）や、配属先施設内の就職（キャリア形成）支援体制、実施している就職支援サービス内容を理解できるようになることを目的とする。

到達目標
1 配属施設の就職（キャリア形成）支援体制と離職者訓練コース担当指導員との連携体制を説明できる。 2 配属施設で実施している就職（キャリア形成）支援サービスについて説明できる。 3 配属施設と関わりがある公的就職・就労支援施設にどのような施設があり、どのような支援をしているか説明できる。 4 配属施設で実施している離職者訓練コースの就職支援の内容および実施体制について説明できる。

授業計画		備考
1	キャリア・コンサルティング実践 の実施計画をたてる。	施設実習
2	施設と関わりがある就職(キャリア形成)支援施設訪問の計画(1)	施設実習
3	同上(2)	施設実習
4	施設と関わりがある就職(キャリア形成)支援施設の調査	施設実習
5	同上(2)	施設実習
6	配属施設の就職支援体制と離職者訓練コース担当指導員との連携体制の調査(1)	施設実習
7	同上(2)	施設実習
8	配属施設で実施している就職支援(キャリア形成支援)サービスの調査(1)	施設実習
9	同上(2)	施設実習
10	離職者訓練コース担当指導員と配属施設で実施している就職支援サービスとの連携調査(1)	施設実習
11	同上(2)	施設実習
12	先輩指導員 2 名に離職者訓練の職業訓練および就職支援に関してヒアリングをする。(1)	施設実習
13	同上(2)	施設実習
14	就職支援担当者に離職者訓練の職業訓練および就職支援に関してヒアリングをする。(1)	施設実習
15	同上(2)	施設実習
16	調査した内容をレポートにまとめる。	施設実習
17	調査した内容を発表する(新目真紀 原圭吾、濱田勇、石田百合子)	Teams
18	全体の振り返り	施設実習

評価方法	レポートにより評価する
教科書及び参考書	

主な使用機器等	パソコン、プロジェクター
その他	